

中央アルプス全山縦走報告

2010年8月30日(水) - 9月3日(金)

M4 只左一也

8月30日：高尾→(JR)→伊那市(仮眠)

8月31日：伊那市→(タクシー)→桂木場→木曾駒ヶ岳

9月1日：木曾駒ヶ岳→宝剣岳→空木岳→摺鉢窪避難小屋

9月2日：避難小屋→南駒ヶ岳→越百山→安平路山→安平路避難小屋

9月3日：避難小屋→摺古木山→登山口→(車道)→幸助バス停→(バス)→南木曽駅→(JR)→高尾

南アルプスや八ヶ岳など、遠くから中央アルプスを真横に眺めると、稜線は将基頭山～木曾駒ヶ岳～空木岳～南駒ヶ岳～越百山～安平路山～摺古木山となめらかに続き、摺古木山ですとんと切れ落ちていて、一つの塊のようになっている。私は、中央アルプスに行くときは必ず木曾駒ヶ岳～摺古木山の全山縦走をやろうと、心に決めて、計画を練っていた。

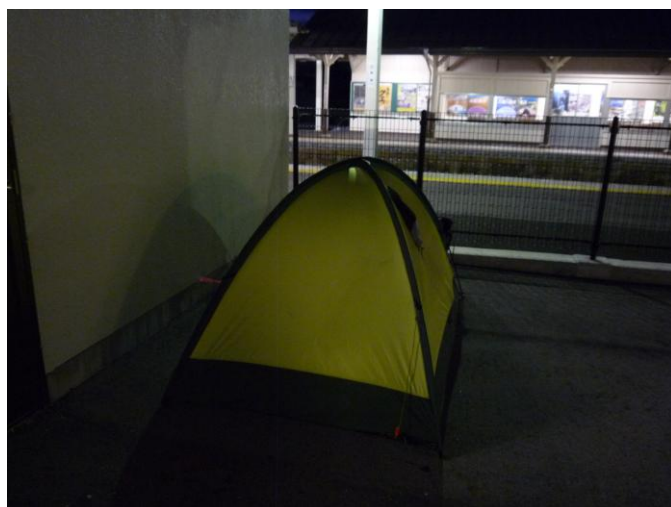
今回、その計画を実施する機会に恵まれた。南アルプスや北アルプスに比べて山のスケールは小さいが、中央アルプス核心部、木曾駒ヶ岳～空木岳～南駒ヶ岳～越百山の稜線の美しさは、特筆すべきものだと思う。疲れがたまった状態の縦走で少しきつかったが、天候にも恵まれ、大変思い出深い縦走となった。

0日目 (8月30日(月))

高尾駅	18:45発
(JR中央本線)	
岡谷駅	21:55着 22:23発
(JR飯田線)	
伊那市駅	23:17着 (仮眠)

飯田線の終電に間に合うように、高尾駅を出発、岡谷駅で飯田線に乗り換え、伊那市駅で下車。飯田線の駅の中では大きい方(?)なためか、夜は駅の入口に鍵をかけてしまい、駅のベンチで仮眠しようという私の当ては外れてしまった。

仕方がないので、駅の脇の目立たないところにテントを張って、仮眠した。



1 日 目 (8月31日(火))

起床	04:30
伊那市駅	05:25 発
(タクシー)	
桂小場	05:45 着 06:05 発
野田場	07:25 着 07:30 発
大樽避難小屋	08:45 着 08:50 発
胸突ノ頭	10:25 着 10:40 発
西駒山荘	11:00 着 11:35 発
八合目	12:35 着/発
木曾駒ヶ岳	14:05 着 14:20 発
頂上山荘	14:40 着 (幕営)
(歩行時間：約 7 時間 30 分)	

夕食後、木曾駒ヶ岳山頂往復

テント	18:00 発
木曾駒ヶ岳	18:15 着 18:30 発
テント	18:40 着 (就寝)

伊那市から登山口方面へのバスはあるのだが、問い合わせたら住民専用のバスで登山客は利用できないということだった。歩けないこともないのだが、6月末から北海道、北アルプスと、ずっと山に行っていた疲れがたまっていて、この暑さの中、縦走前に車道を何時間も歩くのは厳しいので、仕方なくタクシーを使うことにした。

朝、目覚めると快晴。駅の前から、南の方に空木岳が見える。5時半、前日に予約しておいたタクシーに乗り込み、登山口の桂木場へ。

明るい樹林帯を登って行くと、30分もしないうちに最初の水場を横切る。「ぶどうの泉」というきれいな名前の水場で、なかなか旨い水だった。この先、何箇所も水場があるので、とりあえずペットボトル2本分だけ汲んでいく。



駅前から南の眺め。遠くに見えるのは空木岳。



桂木場の登山口



「ぶどうの泉」

檜の植林地帯から広葉樹の雑木林となり、やがて美しいカラマツ林となる。左手に、樹林の間からこれから目指す将基頭山が頭上遥か高いところに望まれる。やがて「野田場」の水場に到着。この水も旨い。最近は大立が多いためか、水は豊富に流れている。「馬返し」で権兵衛峠からの道と合流。さらに登って行くと、苔むしたシラビソの原生林となり、大樽避難小屋に到着。定員 10 人となっているが、小さな小屋で、5 人が限度だろうか。



将基頭山はまだまだ遠い



美しいカラマツ林



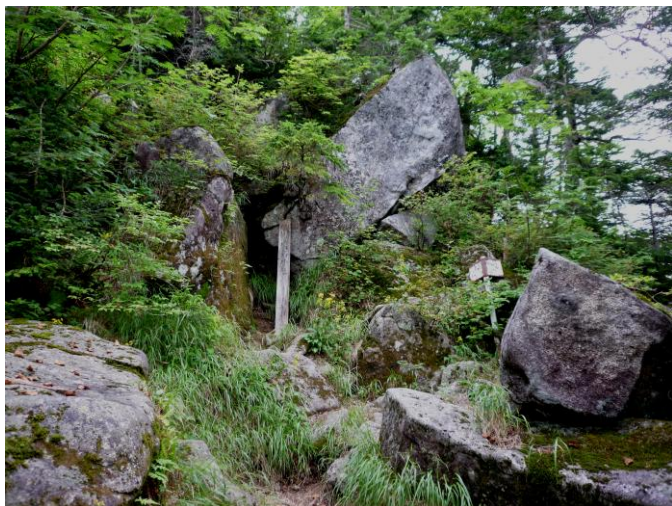
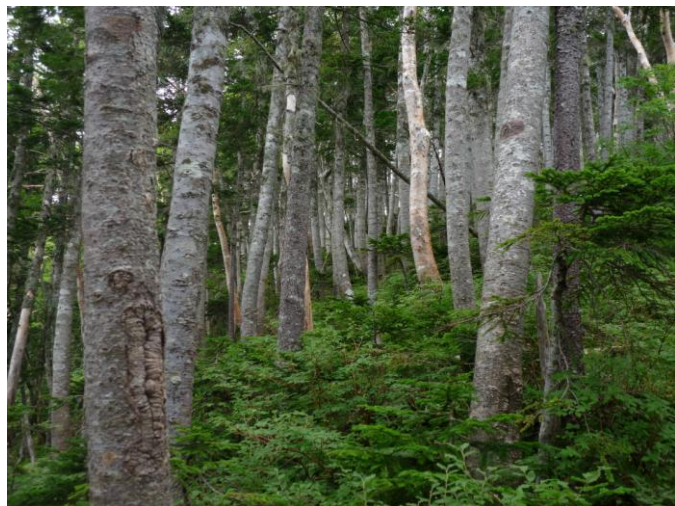
野田場の水場



大樽避難小屋

ここからは「胸突き八丁」と名付けられている登りとなるが、想像ほどはきつくはない。美しい樹林帯の中を黙々と登って行くと、「やっそこ平」のあたりで、後から登ってきたトレイルランニングの若いお兄さんに追い越された。

胸突きの頭を過ぎると平坦になり、茶臼山方面からの道と合流すると、ようやくハイマツ帯となって展望が開けた。しかし、すでに雲が湧いていて木曾駒ヶ岳は拝めなかった。



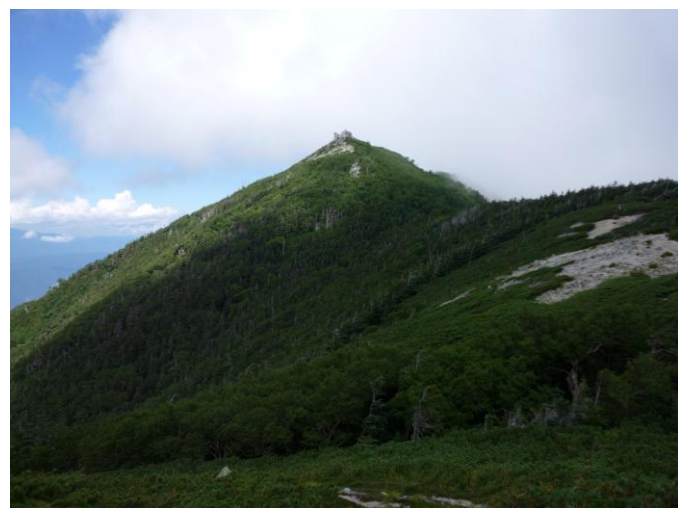
「津島様」のお宮



胸突きの頭



茶臼山方面からの道と合流



行者岩



西駒山荘

ここから道は稜線の東斜面をトラバース。20 分で西駒山荘に到着。夏休みも終わり、平日ということで人気は全くなかった。ここでも旨い水がじゃばじゃば湧き出しており、駒ヶ岳山頂で水を買うのはいやだったので、ここで 5L ほど汲んだ（実は、頂上山荘はテント泊の人でも水は無料だった）。

日照りでも決して涸れないという不思議な水たまりのある岩「天水岩」の脇を通って、将基頭山を往復。山頂は生憎ガスの中で展望は全くなかった。

ハイマツと巨岩と白砂の庭園のような尾根を進み、大正 2 年の遭難事故の「聖職の碑」を過ぎ、宝剣岳への巻道との分岐、八合目となる。



小屋のすぐ近くに、水が豊富に湧き出している



天水岩。日照りでも、この岩の上の水たまりは涸れないという。



大正2年の大遭難の碑



将基頭山。生憎ガスで展望はなし。



茶臼山



八合目の分岐



将基頭山の方を振り返る



濃ヶ池を見下ろす

左手に濃ヶ池を見下ろしながら駒ヶ岳へ直登する尾根「馬ノ背」を登って行く。ときどき青空がのぞくが、駒ヶ岳は見えない。遠くで雷が鳴り出した。左手に頂上小屋が見え、分岐となったところで荷物を下ろし、空身で山頂に向かう。10 分ほどで山頂に到着。人が全くいない。ガスが少し消えて、頂上山荘、中ノ岳の向こうに宝剣岳が姿を現した。展望が開けるのを期待して少し待ったが、ガスが消えそうにもないので、荷物の場所まで引き返し、頂上山荘の前の中央アルプス唯一のテン場でテントを設営した。

テン場もガラガラで、もう一張だけだった。頂上山荘は、番人はいたが休業中で、予想外の静かさだった。



中ノ岳。青い屋根の小屋が頂上山荘。



馬ノ背の稜線



木曾駒ヶ岳山頂直下



木曾駒ヶ岳山頂(2956m)



宝剣岳(2931m)



神様が祭られている



伊那前岳(2883m)



山頂から頂上山荘を見下ろす。向こうのなだらかなピークは中ノ岳(2925m)



休業中の頂上山荘。テント泊の場合は、無料で水を分けてくれる。

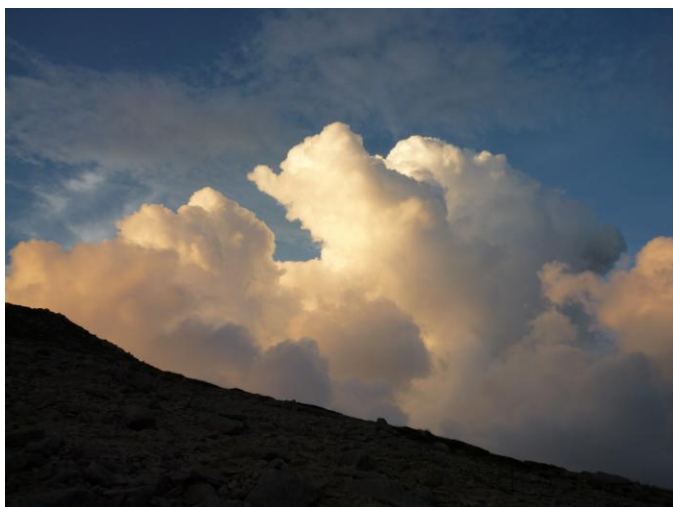
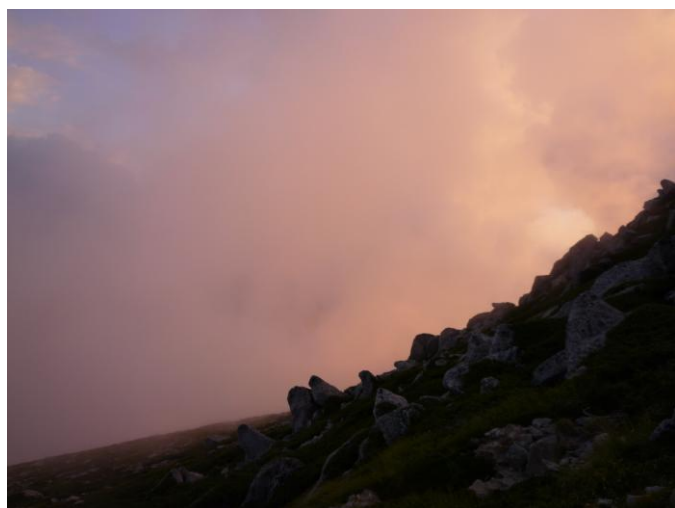


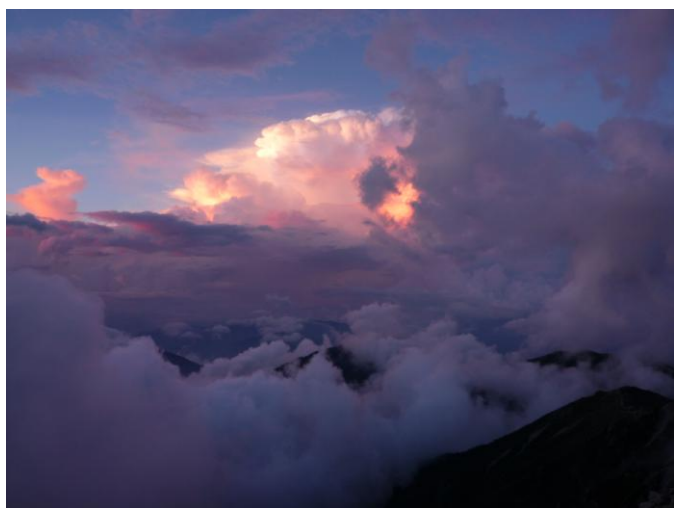
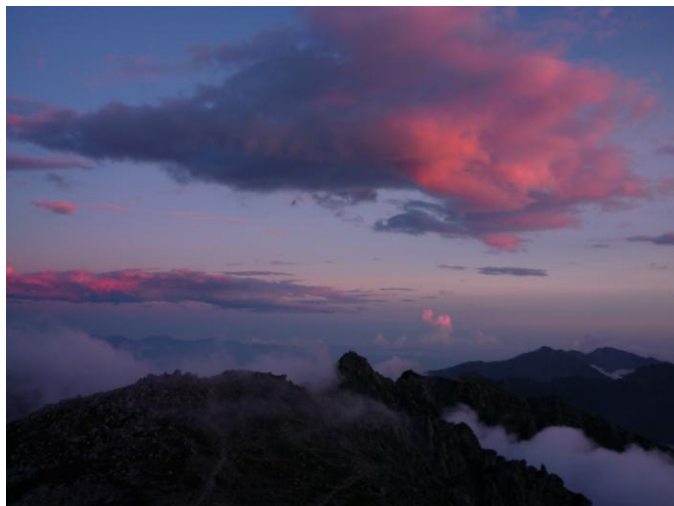
テン場はガラガラ。右の黄緑のが私のテント。



テン場から山頂までわずか 10 分

テントを張って中で休んでいると、雷が近づき、雨がパラパラ降り出した。夕食を食べ終わり、テントの外を覗くと、雲は残っていたが青空が大きく広がり、西の空が焼けてきた。頂上までわずか 10 分なので、カメラを持って、再び頂上を目指す。雲がどんどん消え、遠く空木岳や南駒ヶ岳まで見える。頂上に着くと、美しい夕焼けが待っていた。北アルプスの方は、巨大な積乱雲が稲光を発している。次第に暗くなってきたが、迂闊なことにライトを持ってこなかったのが、足元が明るいうちにテントに引き返し、寝袋に潜り込んだ。





北の空に湧き立つ入道雲。写真には写っていないが、頻繁に稲妻が光る。

